

一歩ずつ強くなるプロセス



在宅復帰の要

田川市にある後藤寺の病院
と云えば社会保険田川病院
(335床)。地域がん診療
連携拠点病院や地域医療支援
病院等の認定を受けている田
川地域の基幹病院である。

田川病院は、救急などを受け
入れる「急性期の病院」とい
うイメージが強いかもしれな
い。だが、現在は急性期から
在宅までトータルに治し、支
える医療提供を目指し、回復
期リハビリテーション病棟や
地域包括ケア病棟といった回
復期病棟、訪問診療や訪問看
護、訪問リハビリテーション
を有する「多機能病院」へと
進化している。

そんな社会保険田川病院で、
365日、毎日リハビリテー
ションが行われているのをご
存じだろうか。手術や投薬だ
けでなく、「治し、支える医
療」にリハビリテーションは
欠かせない。今回のひとち
ょう新聞では、急性期から回
復期・在宅までトータルで支
える当院のリハビリテーシ
ョンについてお伝えする。

未来をひらく リハビリ

リハビリテーションとは

リハビリテーション (Rehabilitation) とは、
ラテン語の re (再び) と habilis (適した) を
組み合わせた言葉であり、失った機能を回復
し、再びその人らしい姿に戻すこと、ふさわ
しい状態まで回復して生きていくことを目指
す活動を指す。

では、リハビリテーションが医療現場におい
てどのように関わるのだろうか。

例えば足を骨折をした場合、手術をしたと
してもすぐに歩けるようにはならない。骨折
前の状態に戻るためにも、歩行訓練をはじめ
普段の生活をする上でのあらゆる動作の練習
をリハビリテーションで行う必要がある。そ
うすることで日常生活機能 (ADL) の回復
をしていく。

また、リハビリテーションを行う目的は、病
気やケガによって低下してしまった身体機能
を回復することだけにとどまらず、疾患の発
症による後遺症のリスクを緩和するという目
的もある。その他にも、寝たきりや要介護状
態になることを防ぐためなど、リハビリテー
ションにはさまざまな目的がある。

リハビリには 段階がある？

リハビリテーションには、急性期・回復
期・維持期と呼ばれる3つの段階がある。

【急性期のリハビリテーション】

急性期は、病気の発症や受傷して間もない
時期、手術直後の最も医学的リスクが高い時
期である。治療や処置のためある程度の安静
は必要だが、過度の安静は廃用症候群※を招
く。そのため急性期からのリハビリが重要と
なる。

当院ではリスク管理のもと、廃用症候群の
予防のためのベッド上リハビリを行うことも
に、状態に応じて可能な限り早期離床を目指
す。急性期から次の段階である回復期を経由
せず在宅復帰をするといったケースもあるた
め、それぞれの目標に応じて最適なリハビリ
を行うことも、急性期での大切な役割だ。

※廃用症候群：病気やケガによって長い間寝たきり
になることで起こる全身の障害

【回復期のリハビリテーション】

回復期は、急性期の治療を終え、病気やケ
ガが安定した状態で、さらにリハビリの継続
が必要な段階である。その際、急性期の病棟
から回復期の病棟へ移り、集中的なリハビリ
が継続される。患者さんが社会や家庭へ問題
なく復帰したり、寝たきりの防止など退院後
の日常生活を見守った訓練を行う。そのため
急性期に比べ、在宅生活に近い環境で生活動
作訓練を中心にリハビリを行う。

当院には前述のように回復期リハビリテー
ション病棟を有しており、急性期から回復期
まで一貫したリハビリを提供している。また、
病棟にはリハビリ専用のスペースがあり、患
者さんの状態に応じてリハビリを行う体制を
整えている。



回復期リハビリテーション病棟
リハビリスペース

【維持期のリハビリテーション】

維持期は、急性期・回復期リハビリで獲得
した機能やADL能力の維持を目的に行うリ
ハビリの段階である。維持期ではすでに医療
機関を退院し、在宅や施設での生活を送って
いる時期でもある。

著しい機能改善やADLの向上はあまり期待
できないが、時間をかけて反復訓練を行うこ
とで改善がみられることもある。活動性の低
下を予防し、能力向上だけでなく社会活動へ
の参加も含め、総合的なアプローチを行って
いく時期となる。

当院では訪問リハビリテーションを行って
いる。理学療法士や作業療法士が患者さんの
自宅を訪問。実際の生活の場でリハビリを行
うことで、患者さんはリラックスして取り組
むことができ、なおかつ普段の生活に即した
ものとなる。



リハビリの スペシャリストたち

リハビリテーションは、医師や看護師など普段から関わる医療従事者だけでなく、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士といったリハビリテーションのスペシャリストが関わる。患者さん一人ひとりに合わせた目標やスケジュールが組まれ、在宅・社会復帰ができるようサポートする。

【理学療法士】

理学療法士はPT (Physical Therapist) とも呼ばれる。ケガや病気などで身体に障害のある人や障害の発生が予測される人に対して、基本動作能力（座る、立つ、歩くなど）の回復や維持、及び障害の悪化の予防を目的に、運動療法や物理療法（温熱、電気等の物理的手段を治療目的に利用する）も



【作業療法士】

の」などを用いて、自立した日常生活が送れるよう支援する。関節可動域の拡大・筋力強化・麻痺の回復・痛みの軽減など運動機能に直接働きかける治療法から、動作・歩行練習などの能力向上を目指す治療法まで、動作改善に必要な技術を用いて、日常生活の自立を目指す。

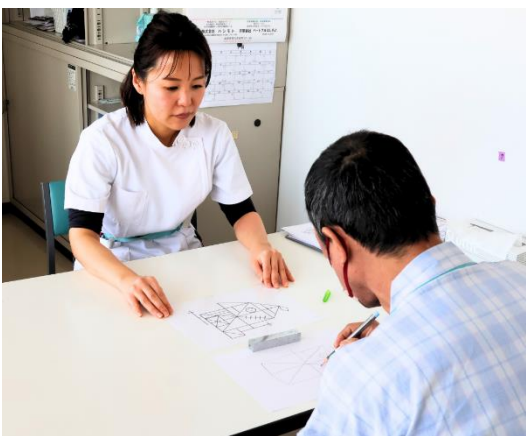


作業療法士はOT
(Occupational
Therapist) と呼
ばれる。患者さん
の健康と生活の質
を向上させるため
に、医療・保健・
福祉・教育・職業
などの領域で行わ
れる、作業に焦点
を当てた治療・指
導・援助を行う。作
業療法士の「作

言語聴覚士

業」とは、着替えやトイレ・料理を含む家事・仕事など日常生活に必要な動作を指す。入院患者さんに対し、食事や着替え、入浴動作といった生活に密接に関連する活動を通じて、患者さんが自立した生活を送れるように支援する。理学療法士が主に身体機能の能力向上を目指し訓練や指導を行うのに対し、作業療法士は日常生活動作の能力向上を目指し生活全般に役立つ訓練や指導を行う。

言語聴覚士はST (Speech Therapist) とも呼ばれる。「ことば」によるコミュニケーションや、摂食・嚥下に問題がある人に対して、その機能の維持・向上を図る。ことばによるコミュニケーションの問題は、失語症や高次脳機能障害のほか、聴覚障害・ことばの発達の遅れ・声や発音の障害など多岐に渡り、こどもから高齢者まで幅広く現れる。



これらの問題の本質や発現メカニズムを明らかにし、対処法を見出すために検査・評価を実施し、必要に応じて訓練・指導・助言・その他の

栄養の重要性

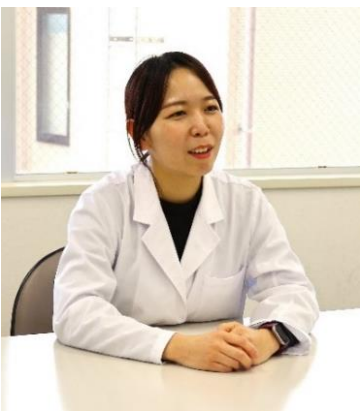
【リハビリと栄養の関係】

リハビリを行う患者さんは、リハビリの内容によって体にかかる負荷量が変動します。そのため、カロリーやたんぱく質など必要な栄養素を補える食事を提供しています。併存している疾患や状態を見て、その人に合った食事を提供し、リハビリができる体づくりを栄養面でサポートしています。

【病棟での役割】

ミールラウンド（食事観察）を毎日行っています。ミールラウンドでは、患者さん一人ひとりの食事量や、食べている際に咳き込んだりしていないかなどを確認しています。この時確認した内容は、STと情報共有をしています。また、患者さんが実際にどのようなリハビリをしているのかを見るようにしています。カルテ（診療録）でリハビリをしていることは確認できますが、どのようなことをしているのか、どれくらいかの負荷がかかっているのかというの、実際にみないと分かりません。

回復期リハビリテーション病棟
管理栄養士 山田 千尋



回復期リハビリテーション病棟
管理栄養士
山川 千尋

進化する リハビリテーション課

私は社会保険田川病院で生まれ、地元田川で育ちました。父の仕事の関係で幼少期より田川病院を訪れることが多かったせいか、私にとって田川病院はとても身近な存在であり憧れであり、この地域にとってなくてはならない病院だと子供ながらに感じたのを今でも覚えています。そして理学療法士になる道を選んだからは田川病院に就職することが私の夢になりました。

私が就職した昭和63年当時、セラピスト※はわずか3名でした。その後地域のニーズに応じて地域包括ケア病棟や、回復期リハビリ

※セラピスト：PT・OT・STの総称



リハビリテーション課
技師長
古木 千晶

『継続は力なり』私の Motto であるこの言葉は「何事も継続することで成果が得られる、諦めずに取り組むことで能力が身につく」という意味です入院から在宅まで切れ目のないリハビリテーションを継続していくことで、患者さんが住み慣れた場所ので安心・安全に“その人らしく”生活できるように、また地域の皆様が健康に暮らせるように支援させていただきます。

古木 千晶 談
リハビリテーション課 技師長

テーション病棟を開設し、現在では75名のセラピストが在籍する大きな組織に成長しました。規模の拡大に伴い、様々な専門的知識を備えたスタッフも多くなり、緩和ケアチームや栄養サポートチームのメンバーとして質の高いリハビリテーションを提供しています。リハビリテーション課の理念は、「障害を持った人々やその介護者と心を通い合わせながら進める『支える医療』の提供」です。入院から在宅までの一貫した流れの中で、超早期よりリハビリテーションを開始し、状態に応じたりハビリテーションを継続すること、在宅復帰を目指します。退院後は外来リハビリや訪問リハビリでの継続的な支援、介護者への指導・援助を実施します。

また地域住民の方々に対しては、健康教室や地域イベントへの参加を通じて、健康増進や生活活性化介護予防などの教育啓発活動を積極的に行うことで、地域に密着したりリハビリテーション課を目指しています。

「ひとちゅう」とは、社保田川病院の経営理念である～人生100年を支える人中心の医療～から来ており、略して“ひとちゅう”。

高度急性期・急性期医療を中心に、回復期、慢性期、在宅に至る幅広い医療を提供。『地域医療支援病院』『開放型病院』『地域がん診療連携拠点病院』『救急告示病院』『臨床研修指定病院（医師・歯科医師）』『福岡県肝疾患専門医療機関』などの指定を受け、職員一同、田川地域の医療を守るために奮闘。

社 会 保 険 田 川 病 院
〒826-0023 福岡県田川市上本町10-18
編 集：社会保険田川病院広報委員会